

# インドの文化について

64期生

## I 研究動機

私の父がインドに出張していた時、インドの様々な話を聞きとても面白そうだったから。また、日本と真逆なところがたくさんあり、このテーマなら自分が興味・関心を持って調べられると思ったから。

## II 研究方法

- ・文献調査で基礎知識をつける
- ・文献調査で疑問に思ったことを中心にインドで実際に調査をする
- ・インドと日本の違いを考える

## III 研究内容 1 - 文献調査

### (1) インドという国について (2010年)

国名…インド  
人口…119,800万人 (世界2位)  
面積…3,287,263km<sup>2</sup> (世界7位)  
首都…デリー  
言語…ヒンディー語、英語、ほか憲法公認語21  
宗教…ヒンドゥー教83%、イスラム教  
民族…インド・アリア系  
通貨/レート…1ルピー=1.9円  
GNI…1,070ドル/人



国旗…公式にはサフラン色は勇気と自己犠牲、緑は信仰と弱者救済、白は真実と平和の象徴とされている。

### (2) 食について

インドでは主に北インド、西インド、東インド、南インドの4つに分かれる。特にカレーの特徴は様々で、北インドはかつてのムガル帝国の影響でこってりとした豪華な宮廷風カレー。日本のインド料理店で多い。西インドはベジタリアンの多い土地柄で野菜や豆を使ったあっさりとしたカレー。東インドは大きな河川が多く、川魚が好まれる。南インドは酸味のあるサンバルなど汁気のある、さらったカレー。また、インドの食文化を語る上で離せないのが「ベジタリアン(菜食主義者)」。国民の31%がベジタリアンである。その中でもいくつかの種類に分類されるが、インドで最も多いのはラクト・オボ・ベジタリアン(動物肉、魚介類、甲殻類だけ食べない)である。そのせいや宗教上の関係もあってか、インドのマクドナルドはビーフ0%のハンバーガーが占めており、その代わりに大きくチキン、ベジタリアン、フィッシュの3種類がある。

### (3) 宗教について

インドではヒンドゥー教が8割近く占め、次にイスラム教が1割、キリスト教や仏教、その他にわかれる。その大多数を占めるヒンドゥー教とは？

～ヒンドゥー教～

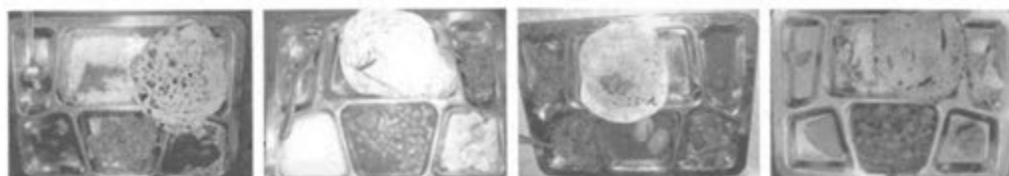
起源は古く、インダス文明終盤期に北西インドに侵入したアーリア人がもたらしたバラモン教（ヴェーダ聖典と、バラモン僧を頂点とした階級システムが特徴）がその始まりだとされる。それが現在のヒンドゥー教へと変化・発展したといわれる。特徴は「輪廻転生」という考え方である。生命は何度も生まれ変わりを繰り返し、現世での行いが来世の生まれ変わりに影響するという考え方が、カースト制度の思想的なバックボーンともなっている。4千年近い歴史を持つヒンドゥー教は、多種多様な神様がいる「多神教」で、インド各地でそれぞれの神様ごとに独特のお祭りがある。そして、牛について。牛は崇拝の対象となっており、神様の1人であるシヴァ神の乗りものであり、様々な生活上で役に立ったからだといわれる。また、カースト制には主に当時インドに侵攻したアーリア人の肌が土着民族に比べ白かったため、自分たちの肌の色を頂点として作った4つにわかれる（アウトカーストをいれると5つ）ヴァルナ、そして職業別のジャーティという2つの階級制度がある。ジャーティは説では2千、3千あると言われ、インド社会を現実的に構成するのはこれである。結婚の際にもカースト制は強く関わり、異カースト間の結婚は少数。現在、カースト制は憲法で禁止しているが、今なお根強く残る。

## IV 研究内容2－現地調査

今回調査したのはインドの西ベンガル州のカラプールが中心である。西ベンガル州の州都コルカタは、イギリス統治時代の中心で、現在はインドで4番目に大きな町である。

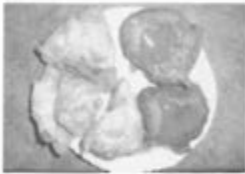
### (1) 食に関する調査

- ① インド料理は本当に辛いのか？…基本はとても辛いのか、とても甘い。おかずなどはマサラ、チリ（グリーン、レッド両方）という香辛料をよく使用するため辛い。なので、日本のような塩系の辛さは少なく、チリ系の辛さが多い。お菓子も辛いのか、甘い。チョコはとても甘く、スナック類は辛い。
- ② インド人は毎日カレーを食べるのか？…毎日朝、昼、夜とカレーを食べる。そして、カレーに加えてカレー味の野菜や肉、卵料理を食べる。そこで、インド人に「毎日カレー味の物ばかり食べていて飽きないのか？」と聞くと、「どうしてですか？」と質問返しをされた。ちなみに、インド料理のイメージがあるナンは、値段が高く大きな窯が必要で、普段は食べない。



〈毎日の昼食〉

- ③ 食事の仕方…基本的には右手で食事をする。左手は不浄なものとして使わない。しかし、食事中に「お皿をとって下さい。」と言うと左手でまわしてくる。水も左手で飲む。食事中は右手を使用しているので逆に左手でないといけならしい。そして、インド人は他人が口を付けたものを不浄物として絶対に口につけない。なので、1つのコップに水が入っているとすると、全員の口を付けずにコップを離して水を口に入れて飲む。



〈おやつ(18時頃)〉



〈インドのスナック〉



〈だがし屋〉

左 サモサ  
右 シロップがかかった甘いスイーツ。

## (2) 宗教に関する調査

- ① 祭りについて…ヒンドゥー教にはたくさんのお祭りがある。大きいものからローカルなものも含めると、ほぼ毎日お祭りを行っている。西ベンガル州で10月の中頃に開かれるドゥルガプジャというお祭りはインドでも最大で、その時は会社も休みにして盛大に祝う。ヒンドゥー教の祭りはとても派手で、人が多すぎて市内が渋滞し車が進まないほどの人気。このドゥルガプジャでは仮設の大きな祭殿を作りお参りをする。



〈ドゥルガプジャ〉



〈祭殿〉

- ② ヒンドゥー教の色々…まず牛について。インドの町中には至る所に牛がいる(新種の牛!?と思う程ガリガリにやせた骨と皮だけの牛)。もちろん食べないが、牛乳は飲む。インドには牛乳を配達するミルクマンがおり、生ぬるい牛乳をおわんにいれ



〈ミルクマン〉

てくれる。次にカーストについて。文献調査の通り、法律上ではなくなったが、現在も依然として根付いている。しかしインド人はそういった身分差別に対する意識が低く、少しでも上のカーストの者は下のカーストの者に対してひどい行いをしている。例えば、ゴミや食べカスを平気で捨て、それを下の階級の者に掃除させる。下のカーストの者と同じテーブルにつかない。また、ある新聞で低カーストの者が上位カーストの者にラブレターを渡した事を他の上位カーストの者が知り、低カーストの者を集団で殺したと書いてあることがあった。最近では、低カーストの者がそういった身分差別か

ら脱出しようと仏教などの他宗教に改宗する人が増えてきている。職業面では最近できたIT関係はカーストの対象外なので誰でも働けるが、会社で上位カーストの者が上司だと結局同じような関係が出来てしまう。ちなみに、日本人がヒンドゥー教に改宗すると下から2番目のカーストになるらしい。

- ③ 結婚について…基本は同じカースト、同じ宗教が絶対であるが、最近は少しずつ破られてきている。恋人同士での結婚よりも、親の決めた相手と結婚するパターンがほとんどで、そのほうが良い生活ができると思っている人が多い。結婚式は3日あり、州によって少し形態が変わる。

～結婚式～

1日目…お寺で儀式を行い、そのあと車に乗ってお寺の周りをゆっくり一周する。車の前には友人らが躍り、その友人らの前をチンドン屋のように音楽を演奏しながら行進する。式の後、食事会がありその日は終了。



〈新郎と新婦〉



〈儀式①〉



〈儀式②〉



〈儀式②の壁に貼っているヒンドゥー教の神〉



〈お寺を一周する車〉



〈結婚したての家の玄関に飾る〉



〈食事会の御飯〉



〈結婚式の招待状〉

2日目、3日目…披露宴。食べて躍ってを夕方から夜遅くまで行う(新郎と新婦は初日は絶食)。また結婚する時は親族から金製品をもらうのがしきたり。

### (3) 生活に関する調査

- ① 交通関係…車で走行中、前を猫・蛇が横切ると車は一度バックして走りだす。これは、事故を起こさないための縁起担ぎらしいが、高速道路でもするので危険。またインドでは、車やバイクを追い越す時にはクラクションを鳴らす。トラックなどは、後ろに「クラクションを鳴らして下さい」と書かれている。インド人は時間にルーズな人が多く、電車や汽車は時間通りに来ない。しかし、それはインド人からしたら当たり前で、時間通りに来るほうがおかしいという感覚だ。それに加えて、車内アナウンスが無いので今どの駅にいるのかとても解りづらい。踏切は手動でやっ

ている場合が多く、列車が来るだいぶ前に下ろし、列車が通過した後もなかなか上がらない。バスも列車と同じような感じだが、屋根にも人を乗せる程人が多く、いつも満員である。都会にはタクシーがたくさん走っているが、田舎ではほとんど見られない。その代わりにリキシャーという人力車や、オートリキシャーというのがあり、メーターなどはないので値段交渉をして乗る。これらが一般的な庶民の交通手段である。



〈クラクションを鳴らして下さいと書かれたトラック〉



〈タクシー〉



〈屋根に乗る人と、はしごにつかまる人〉

- ② スポーツ…インドで人気のあるスポーツはクリケット。試合がある度に休む者もあるぐらい人気が高く、草クリケットもある。ワールドカップで優勝経験もある。西ベンガル州ではサッカーも人気。
- ③ 家…一般的な家はレンガとモルタルで作っているが、鉄筋はほとんど通っていない。低コストだと竹と藁の家が多い。お風呂（シャワー）はあっても水しか出ず、井戸水を利用するところもある。そして、なぜかシャワーをひねると緑色の水が、洗たくすると緑色になることがある。インドには虫や爬虫類が多く、特に雨季が終わると飛ぶ虫が大量発生する。家には蟻やトカゲ、ヤモリが一年中いる。雨季になるときのこがはえることもある。ちなみに、蛇もそこら中にいて、特に田舎ではコブラもいる。



〈一般の家〉



〈家にはえたきのこ〉



〈出現するコブラ〉

- ④ インド人から見た日本人…インド人から見た日本人は、とても働いてタフ。マナーが良い。お金持ち。悪い面はすぐに怒る。インドに居てるのに、あまりインド料理を食べない。他には散髪をあまりしない（インドでは20円程で散髪できるのでよくしている）。というイメージだそう。わたしから見たインド人は、とても派手好きで、どこでもすぐに寝るイメージだ。



〈寝る人たち〉



〈派手なバス〉

## V 結論

インドという国は、調べれば調べるほど新しい発見があり、まだまだ成長していきましょう。しかしインド人はルーズ、適当、カースト制などによって成長が妨げられていると思う。宗教という一つの概念に縛られず互いの宗教を認め合うようになれば治安も良くなるのではないかと考える。インドはまだまだ発展中の国であるが、その分とても面白い発見ができる国である。

## VI 感想・反省

今回、本当は自分の足で現地に行き調査をしたかったが、都合上の問題で行けず、父に調査をしてもらった。自分で出来なかったのが反省である。また、今回は西ベンガル州の結果であるので、今度調べるときはインド全体で調べたい。感想としては、私が思っていた以上にインドは面白く、そして複雑だと思った。また、資料となる写真がたくさん撮れたので良かったのではと思う。

## VII 参考文献

- ・なるほど知図帳世界2010：昭文社、2010年7版1刷発行
- ・中学地理の発展的学習：斎藤毅・矢ヶ崎典隆編著、株式会社文英堂
- ・世界のとんでも法律集：盛田則夫著、中央公論新社、2007年10月10日発行
- ・世界一くだらない法律集：デヴィッド・クロンビー著、株式会社ブルース・インターアクションズ、2007年8月25日発行
- ・<http://cooked.com>
- ・<http://blog.chefhariom.com>
- ・<http://ayrt-indo.com> 菜食主義者とインド・マールヴェーダ
- ・<http://ameblo.jp/kashiwan/> 世界の食卓 グルメ探求の旅
- ・<http://thegoldexp.blog99.fc2.com>
- ・<http://e-food.jp/travellsouth-india/>
- ・<http://www.indochannel.jp/> ヒンドゥー教